

各地の最新ニュース

2009年6月11日 アシェル・イントレーター

ベエル・シェヴァ

今週、ベエル・シェヴァにあるメシヤニック・コングリゲーションを迫害し、その建物を襲撃して大きな損害を与えた超正統派グループに対する裁判が始まりました。ベエル・シェヴァのコングリゲーションのハワード・バス師は、「真実が勝利を収めるよう、実際何が起こったのかをイッド・ルジン判事が見極めることができるよう、攻撃した指導者たちが審議にかけられるよう、弁護士が本件を提示する際に知恵が与えられるよう祈って欲しい」と願っています。「大変深刻なことが起こったということに疑念の余地はない。」と判事はすでに認めています。次の審議は6月21日に予定されています。

レバノン

先週レバノンで行われた選挙において、サアド・ハリリ氏率いる「未来」党と呼ばれ、イスラム穏健派、ドルーズ教、西洋系、そしてキリスト教による連合政党が、シリアやイランの後ろ盾を持つヒズボラ・テロリストグループに対して勝利を収めたことを感謝しています。投票率は53%の高率でした。ハリリ氏の連合党は67議席を獲得し、片やヒズボラは57議席を獲得しました。ハリリ氏の連合がすべての内閣の任命に関して拒否権を付与させよ(注)というヒズボラの要求に屈するかという問題が残っています。

注:レバノン国民議会(定数128)で、野党勢力が閣僚ポストの1/3を取ると拒否権が付与されるが、今回の親米政権が野党勢力であるヒズボラに1/3の閣僚ポストを与えるかどうかが焦点となっている。(6月9日東京新聞WEB記事「レバノン組閣難航必至 ヒズボラと融和重点」参照)

イラン

明日6月12日、イランで大統領選挙が行われます。候補者は二人で、イランの最高指導者アヤトラ・ハメネイ師の支援を受けるアフマディネジャド氏と、ハシュミ・ラフサンジャニ元大統領の支援を受けるミア・フセイン・ムサヴィ氏です。選挙戦は接戦で過熱しています。アフマディネジャド氏は(彼流の「魅力的な」やり方で!)対抗馬を裏切り者であると糾弾し、アドルフ・ヒトラーのように嘘をまき散らしているなどとムサヴィ氏を侮辱したことで捕えられるべきです。一方ムサヴィ氏はアフマディネジャド氏とそれほどイデオロギー的には差がありませんが、彼のグループは国を改革する可能性を表し、アフマディネジャド氏の狂気に対抗して投票します。

ネタニヤフ氏

日曜日に、イスラエル首相のベニヤミン・ネタニヤフ氏はテルアビブにあるバル・イラン大学での講演で劇的な施政方針演説を行う予定です。今まで彼は、アメリカやパレスチナ人に対して以前約束してきた事柄をすべて認めたいということ、それにはジョージ・W・ブッシュ大統領によって概説された「和平へのロードマップ」が含まれていますが、一方だけの譲歩に関しては反対しています。ネタニヤフ氏は難しい立場に立たなければならず、国際社会やオバマ大統領からの圧力に抵抗する一方、自分の連立政権内にいるより過激な右派勢力からの圧力にも抵抗しています。

二国併存案

イスラエルに対する国際社会からの要求の一つは、「二国併存案」に同意することです。実際に、イスラエル人の大半は平和へとつながるなら二国併存案は良いと思っていますが、過激なイスラム派閥が本当にイスラエルとの平和に同意するという見込みはほとんどありません。実際、「二つの国家、二つの民族」というこの案はやや不合理だと思います。どの二国でありどの二民族なのでしょう。一方はパレスチナ人でもう一方はユダヤ人でしょうか。計画によると一国はパレスチナ人のため、もう一国はパレスチナ人とユダヤ人のためとされます。もし本当に二つの民族それぞれに別々の国家ということであるなら、なぜ皆はユダヤ人に対して家から出て行くように言いますが、誰もパレスチナ人に出て行けと言わないのでしょうか。なぜ皆パレスチナ領と呼ばれている場所でのユダヤ人の入植をすべて凍結せよと言いますが、誰もユダヤ領内にあるアラブ人の入植を凍結せよと言わないのでしょうか。

エルサレムの安息日のデモ

エルサレム市長のニル・バルカット氏はエルサレムの正統派から抗議を受けています。バカラット氏は市の駐車場を安息日(土曜日)にもオープンさせることを許可し、観光や街の文化的イベントを奨励しました。超正統派はこれを安息日とラビの法に反するとしています。前の安息日、彼らは警官に立ちのぼって暴力的なデモを行いました。バカラット氏はいずれにせよ駐車場はオープンにしておくと言いました。ほとんどの世俗派はこの超正統派のデモを、他のグループを追い出してエルサレムを正統派のラビによる支配をもたらそうと見えています。

IHOP イスラエル召命会議

カンサスシティにある国際祈りの家で行われたイスラエルの召命会議を再び成功裏に終えたことを私たちは主に感謝しました。マイク・ビックル、ダン・ジャスター、そしてアシェルがメイン・スピーカーでした。土曜日に並行してマイクは「イスラエルの完成」について語り、アシェルは「教会の完成」について語りました。(アシェルの別のメッセージは「イゼベルとジハードと戦う」「イエシュアの支配と統治への熱意」そして「来る第二のホロコースト」などでした。)私たちは、イスラエル国家に対する

神のご計画について、IHOP の献身の深さに心打たれました。現在、キリストの体のほとんどに対し神の御国のために IHOP のチームは先導しています。

強盗

アシェルとベティが今週 IHOP、ティックン、そして Call2All 香港と忙しく活動している間、エルサレムにある彼らのマンションにイスラム教の不法就労者によって押し入られました。書類、宝石、お金、鍵、小切手帳などが盗まれました。「兄弟たちよ。私たちがアジヤで会った苦しみについて、ぜひ知っておいてください。私たちは四方八方から苦しめられていますが、窮することはありません。イエスのいのちが私たちの見において明らかに示されるためです。」(II コリント 1:8、4:8、4:10)「自分の財産が奪われても、喜んで忍びました。」(ヘブル 10:34)この取るに足らない損害は私たちの主であり救い主にある永遠の実と比べると無に等しいとして、神に感謝しました。

迫害なくしてリバイバルなし

最近私たちのチームはある優れたアラブ宣教師である「J 師」と交流する機会がありました。彼の家族の多くはイスラム宗教指導者です。彼がイエスの信仰に入ると、彼の家族はそれを取り消すよう迫りました。ある時、彼の親戚が彼を部屋の隅に追いやり、彼に暴力を振るい殺すと脅しました。(イスラム社会における「名誉の殺人」は裁判にかけられることはまずありません。)その時、親戚の一人が心臓発作を起こし、J を後に残して病院に急いで連れていきました。彼はまた、イスラム伝道で見られる多くの奇跡的な突破口について語ってくれました。私たちに J が最後に語ったことは、「迫害なくしてリバイバルなし。」